

リサイクル燃料貯蔵株式会社	
提出日	2022年3月2日
管理表No.	0113-08 改訂00

項目	コメント内容
地震 (第7条)	(0113-08) ・建物と設備・機器で水平2方向等の組み合わせ方法が異なっている。 どういう特徴のものにどういう評価方法を用いているのか、別資料で説明すること。

(回 答)

建物・構築物において、先行例を参考に、水平2方向及び鉛直方向地震力の影響が想定される応答特性の観点から、荷重の組合せによる影響（直交する水平2方向の荷重が隅角部に応力として集中すること）が想定される基礎スラブや杭については、組合せ係数法（1.0:0.4:0.4）に基づいた評価を行う。3次元的な建屋挙動からの影響（大スパンや吹き抜け部において、面内方向の荷重に加え、面外慣性力の影響が大きくなること。ねじれ挙動により加振方向以外の方向の挙動が励起されること）が想定される耐震壁については、水平2方向及び鉛直方向を同時に入力する地震応答解析により評価する。

（添付5-2-1 使用済燃料貯蔵建屋の耐震性に関する計算書」9. 水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せに関する影響評価 参照）

機器・配管系において、構造上の特徴から水平2方向の地震力が重複した場合に影響を受ける可能性のある設備（部位）として金属キャスク及び貯蔵架台を選定し、保守的に水平2方向（NS方向及びEW方向）の震度における最大応答が同時に発生するものとして評価する。

（「設2-補-013-04 金属キャスク及び貯蔵架台の耐震性」3. 水平2方向及び鉛直方向地震力の組合せによる影響評価 参照）

以 上